

# 昼夜開講制や長期履修制度を導入 仕事をしながら、あなたのスタイルで 柔軟に学べます

これまで修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者の養成を目的としています。

## 教育目標

- 1) 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力の修得
- 2) 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力の修得
- 3) 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケアの提供、研究を行える能力の修得
- 4) 看護の専門領域に関わる新しい課題にチャレンジできる高度な能力の修得
- 5) 文化的、社会的背景を考慮して健康問題をとらえ、国際的に活躍できる高度な能力の修得

## 浜松医科大学大学院医学系研究科修士課程の特徴

- ◎ 4年制大学卒業者に限らず、専門学校や短期大学の卒業者も入学できます。
- ◎ 医療分野の看護に関連する領域で働く方（保育士、栄養士、健康運動指導士等）の在籍実績があります。
- ◎ 修士課程を修了した後、本学の博士課程（医学）へ進学することもできます。
- ◎ 本学附属病院のほか、勤務先も研究フィールドとできるようバックアップ体制が整っています。

## 図書館

図書館では、看護学分野の専門書をはじめ、研究活動を支援するための図書、学術雑誌、AV資料などを揃えています。

開館時間	月曜日～金曜日	9:00～20:00
	土曜日・日曜日	10:00～17:00

※申請により開館時間外や休館日でも24時間利用できます。



## 働きながら学ぶ学生を支援するプログラム

### 長期履修制度

#### 学ぶ期間を延ばせる

2年分の授業料で、履修年限を延長して、修了に必要な単位（30単位以上）を3～4年間で修得。通学日や時間割を柔軟に配分することができます。ただし、助産師養成コースの履修者は長期履修制度の利用はできません。



### 昼夜開講制

#### 一日を有効に活用

夜間開講により仕事や子育てをしながらでも無理なく学べます。夕方6時から9時の授業を中心に各自のワークスタイルやライフスタイルにあわせて無理のないペースで学べます。



浜松医科大学大学院修士課程（看護学専攻）は、現在臨床の場で活躍している看護師や保健師等も気軽に学べる場です。カリキュラムも「自分の学びたい領域を深く学ぶ」、「領域を超えて広く学び教養を深める」などキャリアアップのために、あなたの希望や目標にあわせて自由に組み立てられるようにしています。

## 納付金

入学金 / 282,000円

授業料 / 年額: 535,800円

（前期分: 267,900円  
後期分: 267,900円）令和元年度実績



修士論文コース p4

専門分野、研究領域及び授業科目一覧

基礎看護学

健康科学領域

解剖学、生理学、微生物学、薬理学、免疫学などの基礎的な知識と研究方法を学びます。これにより、科学的思考を養うことで、看護学のさらなる発展に寄与する人材を育成したいと考えています。

基礎看護学領域

基礎看護学に関する研究方法を学びます。ゼミナールでは、ディスカッションを通して、自分の看護実践を見つめ直すことで、看護の質の向上に寄与する研究指導を行っていきたくと考えています。

p4

成人・老人看護学

成人看護学領域

慢性看護、がん看護、急性期看護、周手術期看護、遺伝看護等に関する看護の質の向上を目指した実践と研究課題を追求しています。修論コースおよび高度看護実践コース(クリティカルケア看護CNS課程)の指導を行っています。なお、H31年度の入試からは、高度看護実践コース(クリティカルケア看護CNS課程)の学生募集は行いません。

老人看護学領域

多様な状況にある高齢者と家族の健康に関する諸問題を理解し、基本的な研究能力を修得します。これにより、高齢者の健康障害に関連した社会のニーズに対応できる実践家及び看護研究者の育成を目指しています。

p5

母子看護学

母性看護学領域

関連領域の最新の課題をとりあげ、知識、技術、自己の価値観、倫理性を高める学習を行います。研究の基礎から論文の作成に至るまで、科学的根拠に基づいて丁寧に教授します。

小児看護学領域

小児看護の現状と課題を見据え、小児看護関連の理論の基礎的理解を目指して、小児がん看護、発達障害児の看護等現在のトピックを交えながら学習します。また、小児看護学領域を中心とした看護教育や対人関係の基礎的理論を学習します。「学ぶ楽しさ」を実感してください。

p6

地域・精神看護学

地域看護学領域

地域看護学の概念・理論を教授し、効果的な活動方法を探求します。行政及び産業における健康問題を解決するためのエンパワメント能力の育成や質的・量的研究方法について具体的に丁寧な指導を行います。

精神看護学領域

悩みを抱える人、心を病む人、発達過程にある人等、さまざまな対象におけるメンタルヘルス上の課題に焦点をあて、現状と関連要因を究明し、効果的な援助方法を明らかにするために研究を進めています。

p7

助産師養成コース p8

修士生のことば p9

授業科目及び単位数						
区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	摘要	
共通科目	共通科目	看護研究	1	2	修論コース 4単位以上を選択	
		看護教育論	1	2		
		看護理論*1	1	2		
		看護倫理*1	1	2		
		看護政策論*3	1	2		
		免疫学	1	2		
		医療薬理学	1	2		
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論*1	1	4	修論コース (1)専門分野のうち 主領域の特論及び 演習の8単位を選択  (2)(1)で選択した以外の 特論4単位以上を 選択  (3)特別研究14単位を 必修	
		基礎看護学演習	1・2	4		
		健康科学特論	1	4		
		健康科学演習	1・2	4		
		成人・老人看護学	成人看護学特論*2	1		4
			成人看護学演習	1・2		4
			老人看護学特論	1		4
老人看護学演習	1・2		4			
母子看護学	母性看護学特論	1	4			
	母性看護学演習	1・2	4			
	小児看護学特論	1	4			
	小児看護学演習	1・2	4			
地域・精神看護学	地域看護学特論*3	1	4			
	地域看護学演習	1・2	4			
	精神看護学特論	1	4			
	精神看護学演習	1・2	4			
		特別研究	2	14		

\*1 基礎看護学特論には、看護理論2単位及び看護倫理2単位を含む(基礎看護学特論を履修しようとする者は、看護理論、看護倫理を選択できない)。

\*2 成人看護学特論には、急性期看護学特論2単位を含む。

\*3 地域看護学特論には、看護政策論2単位を含む(地域看護学特論を履修しようとする者は、看護政策論を選択できない)。

健康科学領域

Health Science

健康科学では看護の臨床・研究で土台となる生理学、薬理学、病理学、免疫学、微生物学の基礎的研究を通じて、知識の習得、科学的思考を養成することにより、看護学・基礎医学の一層の発展に寄与することをめざしています。



山下 寛奈 三浦 克敏 永田 年

研究内容

病理部門

形態学を主に分子生物学や免疫学の方法を用いて、病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べ、疾病の理解を深めます。ヒト乳頭腫ウイルスによる子宮頸部癌や頭頸部癌の発症病理、超音波顕微鏡を用いた組織のイメージング、グリセロリン脂質やアミロイドシスの発症機序、妊娠異常と胎盤の変化などについて研究しています。

感染免疫学部門

結核菌等の細胞内寄生細菌に対する免疫応答、バイオフィルム形成細菌の殺菌に関する研究等をおこなっています。

解剖学部門

動物の組織や培養細胞などを用いて、ニューロンの分化、皮膚の上皮化に関する研究等を行っています。

教員の研究テーマ・主な業績

三浦 克敏(教授)・・・超音波顕微鏡、頭頸部病理、代謝障害の病理

- 1) Miura K, Yamashita K. Mechanical weakness of thoracic aorta related to aging or dissection predicted by speed of sound with collagenase. *Ultrasound in Med. & Biol.* doi.org/10.1016/j.ultrasmedbio.2019.05.012:3102-3115
- 2) Miura K, Yamashita K. Evaluation of aging, diabetes mellitus, and skin wounds by scanning acoustic microscopy with protease digestion. *2018. Pathobiology of Aging & Age-related Diseases*, 8:1, 1516072, DOI: 10.1080/20010001.2018.1516072

永田 年(教授)・・・微生物学、免疫学

- 1) Seto S, Nagata T, Keicho N, et al. Proteomic profiling reveals the architecture of granulomatous lesions caused by tuberculosis and *Mycobacterium avium* complex lung disease. *Front Microbiol*, Jan 17: 10:3081, 2020, DOI: 10.3389/fmicb.2019.03081
- 2) Matsui Y, Nagata T et al.: Three-year prospective, observational study of central line-associated bloodstream infections in a 600-bed Japanese acute care hospital, *Am J Infect Control*, 43, 494-498, 2015.

山下 寛奈(准教授)・・・組織学、細胞培養

- 1) Miura K, Yamashita K: Acoustic histology with specific dyes and antibodies. *Ultrasound Med Biol*: 45(12): 3279-3289. 2019.
- 2) Yamashita K, Mikawa S, Sato K: BMP3 expression in the adult rat CNS. *Brain Res* 1643: 35-50, 2016.

研究内容

看護学教育

看護学教育における様々な課題の解決に向け、技術の教育法、感染予防行動の形成など、新たな教育方法の開発とその効果を検証する研究に取り組んでいます。

看護場面の心理的側面の検討

ケア従事者のコンピテンシーの抽出と教育プログラム作成、看護学生・看護職者のメンタルヘルスや中堅看護師のキャリア開発、それらに関連する尺度開発等、心理学の知識を応用した研究に取り組んでいます。

看護における倫理

看護職者に必要な倫理的能力の教育に関する研究や看護学生の倫理的感受性の育成に関する研究に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

片山 はるみ(教授)

- 1) Nagashima E, Katayama H: Creating a Draft Version of the Self-care Actions in Mental Health for Workers Inventory and Verifying its Content Validity, *Asian Journal of Human Services*, Vol. 17, 77-85, 2019, DOI: 10.14391/ajhs.17.77.
- 2) Muramatsu T, Nakamura M, Okada E, Katayama H, Ojima T: The development and validation of the Ethical Sensitivity Questionnaire for Nursing Student, *BMC Medical Education*, 19; 215, 2019, DOI: 10.1186/s12909-019-1625-8.
- 3) Aoki Y, Katayama H: Development of a draft Clinical Interpersonal Reactivity Index to evaluate empathy in nurses, *Asian Journal of Human Services*, vol. 16, 14-28, 2019, DOI: 10.14391/ajhs.16.
- 4) 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生が4年間の看護基礎教育の中で経験した倫理的場面とその対応, *日本看護倫理学会誌*, 11(1), 50-58, 2019.
- 5) 根木香代子, 片山はるみ: 女性中堅看護師のレジリエンスに対する自尊感情と自己効力感の影響, *日本看護科学会誌*, 38, 89-96, 2018.
- 6) Aoki Y, Kee E, Katayama H: Comparison of the factor structure of the Self-Harm Antipathy Scale and related demographic characteristics between Korea and Japan, *Asian Journal of Human Services*, 15, 66-75, 2018.

鈴木 美奈(准教授)

- 1) 澤木亜紀, 鈴木美奈, 片山はるみ: 3年過程看護専門学校看護教員の就業継続を支える原動力とは～第1報～, 第39回日本看護科学学会学術集会, 金沢, 2019.
- 2) 鈴木美奈, 青木好美, 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生に対する無菌操作技術の教示方法の違いと動画撮影を通じた学習効果の検討, 第38回日本看護科学学会学術集会, 愛媛, 2018.
- 3) 鈴木孝嘉, 鈴木美奈, 片山はるみ: 新卒看護師指導に関わる実施指導者のコンピテンシー第1報, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.
- 4) 鈴木美奈, 深見翔子, 村松紋那, 八木美紗希: 口腔ケアに用いるスポンジブラシの効果的な消毒方法, 第32回日本環境感染学会学術集会, 兵庫, 2017.
- 5) Suzuki M, Aoshi T, Nagata T, Koide Y: Identification of H2-Dd- and H2-Ab-restricted T-cell epitopes on a novel protective antigen, MPT51, of *Mycobacterium tuberculosis*. *Infect Immun*, 72: 3829-3837, 2004.



青木 好美 村松 妙子  
片山 はるみ 鈴木 美奈

成人看護学領域

Adult Nursing

成人看護学領域では、成人期にある患者と家族を対象とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害の特徴ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究しています。具体的な研究内容は、がん看護、慢性看護、急性期看護、遺伝看護、家族看護等に関する研究です。

研究指導は、月2回の英語論文抄読会、成人看護学研究検討会、および個別指導等により行っています。



河島 光代 杉山 琴美  
佐藤 直美 影山 葉子

研究内容

がん看護	がん罹患した人々の、身体的・心理社会的・スピリチュアルな状況について分析・検討し、質の高い療養生活支援のための看護について検討する。
慢性看護	慢性病患者の疾患のとらえ方や療養に対する適応のプロセスについて分析・検討し、効果的な看護介入について検討する。
急性期看護	クリティカルケアを要する状況に置かれた患者および家族に対する看護支援について検討する。
遺伝看護	遺伝的問題をもつ患者および家族の、身体・心理・社会・倫理的状況について分析し、必要な看護を検討する。
家族看護	成人期・老年期の患者とその家族を1つのユニットとしてとらえ、家族のもつ健康問題に対する看護について検討する。

教員の研究テーマ・主な業績

- 佐藤 直美(教授)・・・がん看護, 遺伝看護, 慢性看護
- 1) 佐藤直美：慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本 健康信念. 成人患者への教育的アプローチ. 相談技術. 鈴木久美, 旗持知恵子, 佐藤直美(編)成人看護学慢性期看護第3版, 南江堂, pp81-83, 101-110, 2019.
  - 2) 佐藤直美：脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助 筋萎縮性側索硬化症. 重症筋無力症. 鈴木久美, 旗持知恵子, 佐藤直美(編)成人看護学慢性期看護第3版, 南江堂, pp433-447, 2019.
  - 3) 佐藤直美：成人期にある人を看護するための基本的な考え方 成人学習を支援する. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵(編)成人看護学概論第3版, 南江堂, pp170-174, 2019.
  - 4) Sato N, Sato T, et al.: Genetic aspects of smoking behavior in the Japanese population, Preedy VR, ed. Neuropathology of drug addictions and substance misuse Vol 2. London, Elsevier, 1046-1054, 2016.
  - 5) Sato N, Nozawa A, et al.: Assessment scales for nicotine addiction, J Addict Res Ther 51, 008, doi:10.4172/2155-6105, 2012.

影山 葉子(准教授)・・・家族看護(退院支援、家族による代理意思決定への支援)、セクシュアルマイノリティの家族への家族看護

- 1) 影山葉子, 三部倫子：「LGBTの家族」への家族看護の「これまで」と「これから」, 第39回日本看護科学学会学術集会交流集会, 金沢, 2019.
- 2) Kageyama Y, Asano M: Thinking about the patient's wishes: practical wisdom of discharge planning nurses in assisting surrogate decision-making. Scandinavian Journal of Caring Sciences, 31(4), 796-804, 2017.
- 3) 影山葉子, 浅野みどり：家族への意思決定支援に関する国内文献レビュー(第1報) 一退院における家族への意思決定支援に焦点を当てて. 家族看護学研究, 20(2), 93-105, 2015.
- 4) 影山葉子, 浅野みどり：家族への意思決定支援に関する国内文献レビュー(第2報) 一退院調整看護師に関するこれまでの研究と家族への退院支援に関する今後の研究課題. 家族看護学研究, 20(2), 106-116, 2015.

老人看護学領域

Gerontological Nursing

急速に進展する超高齢社会、医療の高度化、変化する保健福祉システム、多様な生活や家族のありよう等、社会の変化に対応するための老年看護に関する看護ケア開発及び看護実践への応用について研究、教育を行なっています。老人看護学の質の向上に寄与するために高齢者の生活の質やケアの質を追求し、自らの看護実践、教育、研究等に発展活用できる能力の育成を目指します。



内藤 智美 鈴木 みずえ 金盛 琢也

研究内容

認知症をもつ高齢者が高齢者にとっての看護実践方法の開発	認知症のために記憶を奪われ苦悩に直面する高齢者と家族、その人のケアに関わる看護師も含めた保健・医療・福祉専門職がともによりよく生きるための看護実践の開発を行っています。パーソン・センタード・ケアを理念に地域・急性期病院・高齢者施設のあらゆる場における認知症看護のあり方を追求していきます。
介護予防に関する看護実践の開発	高齢者になると老化現象に伴う肉体的・精神的な仕組みや働きが低下して、特有の症状・病態、さらに心身の障害に陥る老年症候群(生活機能低下、転倒骨折、排泄障害、摂食嚥下障害など)を起こしやすくなり、看護の専門性の高い実践が高齢者の生命予後にも影響しています。転倒・骨折などの老年症候群の原因分析やそれらを引き起こす痛みのアセスメント、さらには予防に関する看護方法を開発しています。
認知症高齢者への排他ケアモデルの構築に関する研究	高齢者施設における看護職・介護職が実践している認知症高齢者の排他障害への取り組みから、各専門職のケアの内容、専門職種間の連携・協働が「その人らしく、心地よく排泄する」ことを支えるケアとはどのようなものなのか、ケアモデルの全体像を考察するよう取り組んでいます。
在宅高齢者の疼痛の実態、疼痛が及ぼす日常生活への影響	その他にも、高齢者のその人が本来もっている力や心身の機能の維持・改善を支えるための看護、保健・医療・福祉システムの中での多職種連携における看護専門性の明確化もまた、取り組むべき課題と位置付けています。

教員の研究テーマ・主な業績

- 鈴木 みずえ(教授)・・・高齢者の介護・転倒・認知症予防のための看護介入方法・ケアシステムの開発、高齢者のQOLの向上のための看護介入・看護ケア効果評価
- 1) 鈴木みずえ, 吉村浩美, 宗像倫子, 鈴木美恵子, 須永訓子, 勝原裕美子, 桑原弓枝, 水野裕, 長田久雄：急性期病院内の認知障害高齢者に対するパーソン・センタード・ケアをめざした看護実践自己評価尺度の開発, 日本老年看護学会誌, 20, 36-46, 2016.
  - 2) Suzuki M, et al, Effects of a Fall-Prevention Program for Older Adults with Dementia Based on Person-Centered Care, International Journal of Gerontology, S23-S28, 2019

金盛 琢也(講師)・・・再入院予防、遠隔モニタリング、世代間交流

- 1) 金盛琢也、亀井智子、山本由子：都市部多世代交流型デイプログラムにおける参加高齢者特性および活動内容別の世代間交流の評価. 日本世代間交流学会誌 6(1): 83-88, 2017.
- 2) Kamei T, Yamamoto Y, Kanamori T, Nakayama Y: Detection of early-stage changes in people with chronic diseases; A telenursing-based monitoring- based telenursing feasibility study. Nursing & Health Sciences 20(3):313-322, 2018.

母性看護学領域

Maternal Nursing & Midwifery

「midwife」の語源は、「woman who is with the mother」であり、女性の側に寄り添い、新しい命の誕生に立ち会うという助産師の普遍的な使命があります。社会の変化に対応できる母性看護を考えるために社会構造の変化、多様化する社会、女性の社会進出、在日外国人やハンディキャップをもつ母子などの課題を母性看護学の理論やこれまでの研究を活用して考察します。そして、女性と家族に焦点をあててこれからの時代に相応しい母性看護を皆さんと一緒に考えていきます。



木村 幸恵 斉本 美津子 田坂 満恵  
安田 孝子 武田 江里子

研究内容

女性へのケア	妊娠糖尿病になった女性の分娩後の経過と医療チームの支援のあり方、子育て中の母親のおしゃれ意識と子どもへの思い、母親が産後に再喫煙する関連要因、若い女性のやせや月経周期と生活習慣の関連などに取り組んでいます。
子育て支援	母親の養育者としての発達、周産期の女性の気質に応じた支援およびSAT法(Structured Association Technique)を用いた支援を研究しています。在日外国人も含む母子・家族を対象としています。

教員の研究テーマ・主な業績

安田 孝子(教授)・・・妊娠糖尿病既往のある女性の産後の支援、母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルチリトメントの傾向、妊娠糖尿病妊婦の食事・生活行動の調査、妊娠中に禁煙した母親が産後に再喫煙する実態、月経周期と生活行動と精神的要因の関連

- 1) 安田孝子：子どもが1歳6か月と3歳の時の母親の状況, 第33回日本助産学会学術集会, 福岡, 2019. 3. 2-3.
- 2) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y: Relationship between maternal fashion consciousness and mothers feelings about their child rearing among Japanese women who raise their 18-month-old child. 31th International Confederation of Midwives, Toronto, Canada, 18-22 June 2017.
- 3) 安田孝子, 尾島俊之, 中村美詠子：月経周期と生活行動要因・精神的要因との関連, 静岡県母性衛生学会誌, 6, 11-14, 2016.

武田 江里子(教授)・・・母親の養育者としての発達に関する研究、周産期の母親の気質に応じた支援、SAT(Structured Association Technique:構造化連想)法を用いた子育て支援、在留外国人の母子支援、尺度開発

- 1) 武田江里子, 木村幸恵, 田坂満恵：在日外国人である母親の望む子育て支援と影響要因—国籍・気質・「愛着-養育バランス」尺度との関連—, 母性衛生, 59(4), 770-776, 2019.
- 2) 武田江里子, 他：乳幼児を子育て中の母親から子どもへの「愛着-養育バランス」に影響する内的要因—母親の被養育体験と内的作業モデルの影響—, 日本看護科学会誌, 36, 71-79, 2016.
- 3) Takeda E, et al: The development of a maternal caregiving system: Based on changes in the attachment-caregiving balance scale up to 6-7 months postpartum, Journal of Japan Academy of Midwifery, 27, 237-246, 2013.

小児看護学領域

Child Nursing

小児看護学領域では、少子高齢化に伴うさまざまな社会の変化に対応するために、子どもと家族を対象とした看護職に求められる役割と課題について理解します。その上であらゆる健康レベルの子どもと家族の看護における研究課題を追求し、得られた知見を看護実践、教育に活用できる能力の育成を目指します。

研究指導は、小児看護学に関する書籍・論文検討を実施し、研究課題に関する個別指導、関連学会・研究会での発表指導、母子看護学合同ゼミなどを行っています。



坪見 利香 宮城島 恭子

研究内容

発達障害・障害のある子どもへの看護	発達障害児やさまざまな障害をもつ子どもとその家族への看護援助のあり方について検討しています。
小児がん・思春期の看護	がんなど慢性疾患をもつ子どもの思春期・成人期への発達過程を見据えて、健康管理、学校を中心とする社会生活の支援、長期的支援のあり方を検討しています。
小児看護学教育に関する研究	小児看護学実習や講義における学生の学びと効果的な教育方法を検討しています。

教員の研究テーマ・主な業績

坪見 利香(准教授)・・・発達障害児の看護、気になる子どもにかかわる専門職支援

- 1) 坪見利香：発達障害児に対する看護実践に関する研修プログラムの開発-短期的効果の検証-, 障害理解研究 18, 1-10, 2017.
- 2) Tsubomi R: What Children with Developmental Disabilities are troubled about in Outpatient Examinations: Based on the Research with the Parents, The Asian Journal of Disable Sociology 14, 15-24, 2014.
- 3) 坪見利香：発達障害に関する外来看護師の対応の困難さとコミュニケーション力, 障害理解研究, (15), 21-28, 2014.

宮城島 恭子(講師)・・・小児がん看護、がんサバイバーへの支援、思春期看護

- 1) 宮城島恭子, 他：小児がん経験者が病気をもつ自分と向き合うプロセス — 思春期から成人期にかけて病気を自身の生活と心理面に引き受けていくことに着目して—, 日本看護研究学会雑誌, 40(5), 747-757, 2017.
- 2) 宮城島恭子, 他：小児がんをもつ子どもの学校生活の調整に関する意思決定プロセスと決定後の気持ち—活動調整と情報伝達に焦点を当てて—, 日本小児看護学会誌, 26, 51-58, 2017.
- 3) 宮城島恭子：学童期・思春期の小児がんを発症した思春期患者の医療に関する認識と医療者への意思表示, 小児がん看護, 13(1), 51-60, 2018.

地域・精神看護学

地域看護学領域

Community Health Nursing

地域看護学領域は公衆衛生看護学と在宅看護学の2分野で構成されます。公衆衛生看護学は個人・家族を対象とした看護から、社会で暮らし活動する人々、「集団」を対象として社会に働きかける特徴があります。在宅看護は、疾病や障害を持ちながら自宅で生活する人々を対象とし、また在宅看護を支える地域ケアシステムの構築を目指します。月1回の精神看護との合同ゼミと個別指導を通じて、研究能力を育成します。



高部さやか 日吉恭則 菊地慶子  
影山淳 渡井いずみ 山本真実

精神看護学領域

Psychiatric-Mental Health Nursing

我が国の精神保健医療福祉は、平成16年に「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方向性が確立しましたが、令和に至る現在もお過渡期にあるといえます。精神看護学領域では、精神的な困難を抱える人を支える多職種チームの一員として、疾病予防から入院治療、そして治療後のリハビリテーションから長期的に安定した生活まで、対象者の「こころ・からだ・くらし」を俯瞰的に理解し、その人生の様々な場面において良き伴走者になれるような看護実践を支える教育・研究に貢献する人材の養成を行います。



木戸 芳史 増田 郁美

研究内容

公衆衛生看護 地域における子育て支援、生活習慣病対策、アルコール依存症対策、学校保健等における看護活動や、その基盤となる地域や社会システムの構築と評価、保健師教育に関連する研究。

産業看護 働く人々を対象とした保健活動。特に両立支援、職場のメンタルヘルス、地域職域連携における看護支援方法に関する研究。

在宅看護 在宅療養を支える介護者の健康や在宅看護を支える地域ケアシステムのあり方。

教員の研究テーマ・主な業績

渡井 いずみ(教授)・・・子育てと仕事の両立(ワーク・ライフ・バランス)、がんと就労、アルコール対策、産業看護、保健師教育

- 1) 足立円香, 渡井いずみ: アルコール依存症患者の退院支援における院内多職種連携の活動～看護師等へのインタビュー調査より～, 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 54, 222-235, 2019.
- 2) Randomized controlled trial of Web-based weight-loss intervention with human support for male workers under 40: Itsuko Ozaki, Izumi Watai, Mariko Nishijima, Noboru Saito, Journal of Occupational Health, 61, 110-120, 2019.
- 3) 渡井いずみ, 和泉京子, 岩佐真也, 土井有羽子, 佐藤千賀子, 松尾和枝: 保健師教育課程の質を評価する評価基準に関する会員校調査報告, 保健師教育, 3, 39-42, 2019.

山本 真実(准教授)・・・継続的な子育て支援, 母子のコミュニケーション, 療育教室における支援, 母子保健, 学校保健, 家族看護

- 1) 山本真実: 多声的な物語としての家族の理解—“地図や鉄道へのこだわり”についての家族ひとりひとりの物語, 日本家族看護学研究, 25(1), 14-26, 2019.
- 2) 山本真実, 浅野みどり: 子どもの見方を変えていくなやかせ—療育教室に参加する母親と看護師との対話を通じた協働的な学び, 日本看護研究学会, 41(5), 863-874, 2018.
- 3) 門間晶子, 山本真実, 細川陸也, 富塚美和: 乳幼児を育てる母親がとらえた「しつけ」と「虐待」対話的アプローチによる検討, 日本地域看護学会誌, 20(3), 54-62, 2017.

研究内容

精神科訪問看護は地域精神医療を支える中核的なサービスの1つであり、昭和61年より診療報酬の対象となりました。近年、精神科訪問看護は量的に拡大を続けていますが、同時にサービスの質向上も目指し、その枠組みに沿った支援技術の開発と評価を行っています。

学際的手法による新しい精神看護技術の開発と評価

精神疾患を抱える人の身体的健康に関する研究

教員の研究テーマ・主な業績

木戸芳史(教授)

- 1) Kido Y, Kawakami N, Kayama M. Comparison of hospital admission rates for psychiatric patients cared for by multidisciplinary outreach teams with and without peer specialist: a retrospective cohort study of Japanese Outreach Model Project 2011-2014. BMJ Open. 8(8). e019090. 2018
- 2) Tsunoda A, Kido Y, Kayama M. Japanese Outreach Model Project for patients who have difficulty maintaining contact with mental health services: Comparison of care between higher-functioning and lower-functioning groups. Japan Journal of Nursing Science. 15(2). 181-191. 2018
- 3) Kido Y, Kayama M. Consumer providers' experiences of recovery and concerns as members of a psychiatric multidisciplinary outreach team: A qualitative descriptive study from the Japan Outreach Model Project 2011-2014. Plos One. 12(3). e0173330. 2017
- 4) Kayama M, Kido Y, Setoya N, Tsunoda A, Matsunaga A, Kikkawa T, Fukuda T, Noguchi M, Mishina K, Nishio M, Ito J. Community outreach for patients who have difficulties in maintaining contact with mental health services: longitudinal retrospective study of the Japanese outreach model project. BMC psychiatry. 14(1). 311. 2014
- 5) Kido Y, Kawakami N, WMHJ survey group. Sociodemographic determinants of attitudinal barriers in the use of mental health services in Japan: findings from the World Mental Health Japan Survey 2002-2006. Psychiatry and clinical neurosciences. 67(2). 101-109. 2013
- 6) Kido Y, Kawakami N, Miyamoto Y, Chiba R, Tsuchiya M. Social Capital and Stigma toward People with Mental Illness in Tokyo, Japan. Community mental health journal. 49(2). 243-247. 2013

Midwifery Course

助産師養成コース

助産学

助産師 Midwife ... Mid + wife

助産師(Midwife)とは、女性とともにいる女性を意味しています。周産期の母子・家族はもちろんですが、女性とそこに関わる人々を生産に亘って支援していく専門職です。本学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とした教育を行います。母子とその家族や地域の人々に寄り添い、いかなる対象のニーズにも応え得る高度な診断能力及び科学的根拠に基づいた質の高い実践能力、研究能力、教育力を身に付けることにより、マネジメント力を培い、地域の周産期医療の充実、国際的視野を持って母子保健の発展に貢献できる指導的役割を担える人材の育成を目指しています。



齊本 美津子 安田 孝子  
木村 幸恵 武田 江里子 田坂 満恵

授業科目及び単位数							
区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	必修・選択		
					必修	選択	
共通科目		看護研究	1	2	○		
		看護教育論	1	2	○		
		看護理論		2		○	
		看護倫理		2		○	
		看護政策論		2		○	
		免疫学		2		○	
		医療薬理学		2		○	
		病理学		2		○	
		4単位					
		専門科目	助産学	助産学特論Ⅰ 概論/ヒューマン・セクシュアリティ	1	2	○
助産学特論Ⅱ 生殖生命倫理/遺伝学	1			2	○		
助産学特論Ⅲ 周産期学	1			3	○		
助産学特論Ⅳ ウィメンズ・ヘルス	2			1	○		
助産学特論Ⅴ 助産診断技術学	1			3	○		
助産学特論Ⅵ 教育方法論/ソーシャルスキル	1			2	○		
助産学特論Ⅶ 助産管理学	1			2	○		
助産学特論Ⅷ 地域/乳幼児/DV・虐待	1			3	○		
助産学特論Ⅸ ハイリスク/異文化	2			2	○		
助産学演習Ⅰ 助産診断技術学/東洋医学	1			3	○		
助産学演習Ⅱ 健康教育	1後～2前	3	○				
助産学実習Ⅰ 分娩介助/継続事例	1	11	○				
助産学実習Ⅱ 助産院/継続事例	1後～2前	4	○				
助産学実習Ⅲ ハイリスク	2	5	○				
助産学実習Ⅳ 地域	1	2	○				
助産学実習Ⅴ マネジメント	2	1	○				
49単位							
研究		助産学研究	1	1	○		
		課題研究	2	4	○		
5単位							
修了に必要な単位数				計58単位以上			

履修単位数 58単位 ※本コースには長期履修制度は適用できません。

カリキュラムの特徴

1年次に助産師として必要な基礎的能力及び研究のための基礎的能力を身に付けます。課題研究は、より良いケアに結びつけるための実践的な事例研究や自分の興味関心のあるテーマを絞り込み自由に行います。全ての科目の中で問題意識を持って取り組むことで、自らの課題の明確化及び研究の必要性について学び、課題研究を通して高度実践力・研究力・マネジメント力・教育力・指導力の統合を図ります。演習・実習の中では、在留外国人も含む様々な対象へのケアとして5つの健康教育を実施します。必修単位の半数を演習及び実習に費やしており、実践力が強化できるカリキュラムとなっています。

修了後は、  
・修士(看護学)  
・助産師国家試験受験資格  
・受胎調節実地指導員申請資格  
・新生児蘇生法「専門」コース(A)認定  
が得られます。



【実習施設】		
病院	浜松医科大学附属病院 浜松医療センター 木村産科・婦人科 磐田市立総合病院 聖隷浜松病院	
	助産院	毛利助産所 くさの助産院 矢島助産院 川淵助産院 和助産院 よこさわ助産院
		地域

# Message From Graduates 修了生のことば

Nagashima Eri



令和2年3月修了  
基礎看護学  
(基礎看護学領域)  
修士論文コース  
長嶋英里

看護職として働く中で、熱心であるがゆえに心のバランスを崩し、一線を退いていく仲間の背中を度々見送ってきました。この経験から、質の高いケアを提供するためには、医療者自身が健康でなくてはならないと感じ、医療者のメンタルヘルスに関心を持つようになりました。実のところ、学部生の頃から「いつか大学院で研究がしてみたい」という憧れを抱いていたのですが、日々の生活に追われなかなかその一歩を踏み出せずにいました。そんな折、当時の職場の先輩から「そのいつかは今なのではないか」と背中を押してもらったことがきっかけで、大学院に挑戦することとなりました。

学業と仕事・家庭の両立は想像以上にハードな場面もありましたが、各専門分野における最新のトピックスや看護理論について学ぶ時間は、とても有意義なものでした。また、私の所属していた基礎看護学ゼミでは、豊富な看護管理・教育経験を有する先輩方から、貴重なアドバイスをいただくことができました。加えて、大学院を無事に修了することができたのは、研究テーマの絞り込みから論文投稿に至るまで、親身にご指導くださった先生方あってのことと心より感謝いたします。

現在は大学教員として、引き続き医療者のメンタルヘルスに関する研究に取り組んでいます。大学院生活で得た経験を活かして、少しでも医療者の健康に貢献できるよう励んでいきたいと思っています。

Tomioka Honami



令和2年3月修了  
母子看護学  
(母性看護学領域)  
修士論文コース  
富岡ほなみ

大学病院での勤務助産師からスタートし、試行錯誤しながら辿り着いたのは母乳育児支援主体の助産院開業でした。19年の歳月を母乳育児に携わの中で、自分の中で自信と経験値で仕事ができていることに、これで良いのだろうかかと疑問を感じ、研究に取り組みたいと思い始めました。

退院後「直接おっぱいを吸えない」ことで悩む母親が多いと感じていた私は、研究課題として効果的な指導の在り方に着眼していましたが、大学院で学ぶ中でまず客観的なデータを知り、誰のための支援なのかと視点を変えると、研究の方向性も変わっていききました。そして量的研究を分析していくうちに現実の結果に出会い、これまで抱いていた熱い思いから感情や先入観が抜けていき、日々のケアも穏やかな気持ちで問題解決に向き合えるようになりました。

大学院での学びはこれまでの人生で最高に楽しく、思い返せば…データ収集に36回の乳児健診に出向き、研究を担当して下さった武田教授にはいつも温かい言葉と励ましをいただき、母子合同授業は和やかな雰囲気の中で諸先生方、修士課程の皆様からもたくさんのご意見ご指導をいただき、看護研究や看護倫理などでは他職種、他科の看護師さんからも刺激をいただきました。

50歳を過ぎてからのスタートだからこそ必死で頑張れた部分もありますが、本音はもっと早くから出会えたら…と。だからこそ時間はどうしても作れますから一人でも多くの方に大学院でスキルアップしてほしいと思います。

Sugihno Eri



令和2年3月修了  
助産学  
(助産学領域)  
助産師養成コース  
杉保恵里

異業種の社会人経験を経て、看護師を目指す中で助産師になりたいという気持ちが芽生え、当大学院へ進学いたしました。入学時には、年齢や経歴、出身など全く異なる同期生と共にやっていけるのか、講義・実習・健康教育・課題研究などが同時進行していくカリキュラムについていけるのかという不安がありました。しかし、先生方の手厚く親身なサポートにより2年間を楽しく有意義に過ごすことができ、学生5名で、どんなときも励まし協力し合い共に学びを共有し、かけがえのない仲間ができました。

当大学院では、学内・附属病院だけでなく他大学や自治体などからの講師の先生方から熱心な講義が受けられ深い知識が得られます。実習では、病院・診療所・助産院での様々なスタイルのお産を学ぶだけでなく、超音波検査、地域での母子保健事業、小児科クリニック、不妊外来、遺伝外来などで助産師としての知識・技術・態度を深め、児童の性教育・母親学級・施設等の入所者や外国人へ向けた健康教育を行うことにより、様々な社会・文化・生活背景を持った対象者への支援を学ぶことができます。課題研究は、研究方法の基礎から学び、自分のリサーチクエストに基づき、ゼミのディスカッションを重ねて進行させていきます。他領域の院生と合同の講義もあり、臨床や行政・企業などからの他職種の方達とのディスカッションなども行われ、幅広い視野で物事をとらえ柔軟に対応していく姿勢が身に付きます。

当大学院での学びを活かし、多様なライフスタイル・すべてのライフサイクルの女性に寄り添える助産師になりたいと思います。

## LOCATION



## ACCESS

